

△はじめに▽去る10月2日(火)～5日(金)の4日間、東京ビッグサイトを kullanarak開催された『TOKYO PACK 2018 (2018 東京国際包装展)』は、20万9049人の入場者を迎え、出展・来場者双方にとってアジア最大となり大盛況のうちに閉幕した。本号では主な出展代表企業を紹介する(順不同)。

【シコー】

現場の課題を「包む」で解決。

コスト、スペース、物流を変える

シコー(株) (白石忠信会長)。
大阪市北区梅田1-1-3 大阪駅前第3ビル)は、大阪紙工(株)として1950年に設立以来、産業用包装容器(クラフト重包装袋・段ボール・プラスチック段ボール・PE重包装袋等)の安定供給を使命に、約70年の歴史を積み重ねてきた企業だ。
久しぶりとなる今回の出展では、コンパクトながらも赤

を基調としたコーポレートカラーを配したブースを展開。社員全員が揃いのブルゾンを着用し、若さ溢れるブースを演出していた。
テーマは「SOLUTION 現場の課題を「包む」で解決”。経費、荷崩れ、雨濡れ対策、資材在庫、物流など様々な観点から提案を行い、来場者との密接なコミュニケーションを図った。

出展製品

【アレンジバッグ】

アレンジバッグは段ボールケースに代わる包装資材。過去の採用実績では段ボールケースと比較し①包材コストが30%減、②包材スペースが90%減、使用後の包材廃棄量が75%減となる。また、アレンジバッグの素材は「プレッシュユパルプ100%」で段ボール古紙と比較し水濡れに強い材料を使用している。トイレ





ットペーパー、衣類、米などの輸送に最適で既に多くの納入実績がある。

【PE重袋】

▽迷路シール

“逆止弁”の機能を持ったヒートシール加工。充填後に発酵する肥料や飼料ではガスが発生するが、ガスを逃がして袋の膨張を防止する。さらに発酵後は袋内部へ「吸気・吸水」がないため、内容物の品質を維持する。



▽サイドクリアバッグ

PE重袋では個別に表部と

裏部に印刷するため、充填後に側面となる部分への印刷は不可能。しかし、サイドクリアバッグではこれを可能とし、他社品との差別化及び視認性の向上に貢献する。

▽スパイクバッグ

スパイクバッグはピロー袋の片面にエンボス加工を施すことで、積付時の防滑効果を高めたPE重袋。トラック輸送時の荷崩れ対策や、転倒防止フィルム巻の代替に役立つ。



【大型紙袋】

▽マイクロパーフォレーションマルチ

マルチ袋とは“ヒダ付きPE内袋入紙袋”で、コンタミ

防止と防湿性能アップが目的。本商品ではさらに脱気機能を付加するため、ポリ内袋にマイクロパーフォレーション(MP)加工を施した。袋詰め商品の通気・脱気をするために、仕方なく商品保管現場で袋に穴を開けていた課題を解決する。